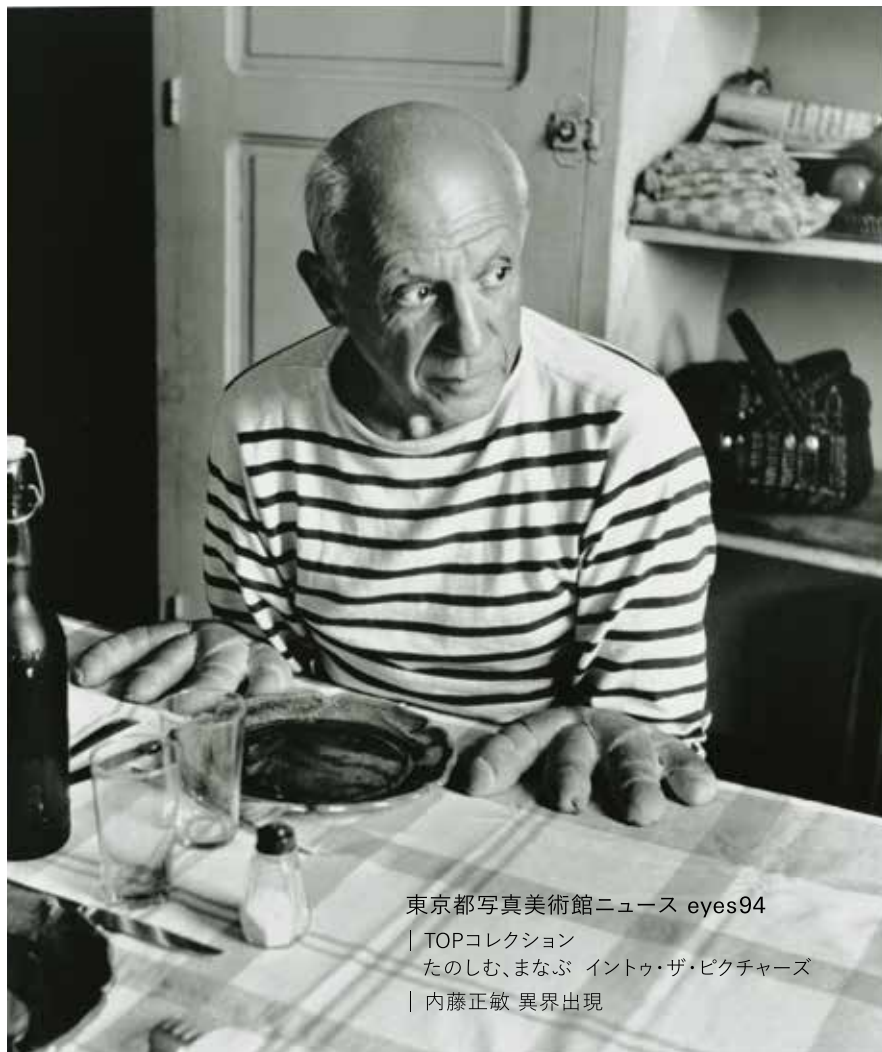


# TOP MUSEUM



さあ、どうぞ一緒に写真の中へ！

東京都写真美術館ニュース eyes94

| TOPコレクション

たのしむ、まなぶ イントゥ・ザ・ピクチャーズ

| 内藤正敏 異界出現

# TOPコレクション たのしむ、まなぶ イントゥ・ザ・ピクチャーズ

TOP Collection: Learning Into the Pictures

3F 2018.5.12 | 土 | - 8.5 | 日 |

TOPコレクションは、毎年1つの共通テーマで、東京都写真美術館のコレクションを紹介する展覧会です。今年は二期にわたって「たのしむ、まなぶ」をテーマに、名作の数々をご紹介します。

近頃、学びの方法が変化してきています。学校では、いわゆる座学とよばれるような受動的な学びから、自らが主体的に体験し学ぶという能動的な学びへと変化しています。

「美術館」という場における学びは、学校や書物による学びとは異なる体験をもたらします。美術館の空間の空気感、壁に並ぶ作品のリズム感、実際の作品の大きさによる存在感などを全身で感じたりすることからの学びは美術館特有のもので、また、

ただ作品を時代の資料として見て情報を得るというだけではなく、自分の興味にそって作品の中に写っているものをじっくり見ることで、それまで気づかなかった作品の別の一面に気づいたり、あるいは「わからないこと」を発見しその「わからなさ」をたのしんだり、ということも美術館での「まなび」です。

本展は、当館の34,000点以上におよぶ膨大なコレクションの中から、古今・東西のすぐれた名作の数々を紹介しつつ、観客の皆様を美術館の豊かで多様な学びへと誘います。写真に詳しい方にも、そして当館を訪れるのは初めてという方にも新たな「たのしみ」と「まなび」がきっとあることでしょう。さあ、どうぞ一緒に写真の中へ！



左) アンリ・カルティエ＝ブレッソン 《ニューヨーク、アメリカ》1937年 右) エリオット・アーウィット 《ブラーツ、シベリア、ソ連》1974年  
2点ともゼラチン・シルバー・プリント

【主催】東京都 東京都写真美術館 【協賛】凸版印刷株式会社  
【観覧料】一般 500(400)円 / 学生 400(320)円 / 中高生・65歳以上 250(200)円 ※ ( ) は20名以上の団体料金  
7月19日(木) - 8月3日(金) の木・金 18:00 - 21:00 は学生・中高生無料 / 一般・65歳以上は団体料金 (各種割引の併用はできません)

\* 図版はすべて東京都写真美術館蔵



- 1) 鈴木理策 《海と山のあいだ》より 2005年 発色現像方式印画
  - 2) ギャラリー・ウィングランド 《テキサス州、サン・マーコス、1964》1964年
  - 3) マイナー・ホワイト 《納屋2棟、ダンスヴィル、ニューヨーク州》1995年
  - 4) 木村伊兵衛 《大阪・中之島公園》1955年
- 2)~4) はゼラチン・シルバー・プリント

【表紙】ロベール・ドアノー 《ピカソのバン》1952年 ゼラチン・シルバー・プリント

## | 関連イベント

### 担当学芸員によるギャラリートーク

会期中の第1・第3金曜日16:00より。展覧会チケット(当日消印)をご持参ください。

### 手話通訳つきギャラリートーク

上記のギャラリートークのうち、第1金曜日は手話通訳つきで行います。

【日時】2018.6.1(金)、7.6(金)、8.3(金)いずれも16:00より  
3階展示室入口にお集まりください(無料対象の詳細は本誌裏面のスケジュール下をご参照ください)

### じっくり見たり、つくったりしよう!

写真にまつわる制作を体験したり、展示室で作品について楽しく話し合ったり、一度にさまざまな体験ができるプログラムです。\*作品解説ではありません。

【日時】2018.7.28(土)、29(日)いずれも10:30-12:30

【対象】小学生とその保護者(2人1組)

【定員】各日10組 事前申込制、先着順

【参加費】800円(別途本展観覧チケットが必要です)

### 視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ

障害の有無にかかわらず、多様な背景を持つ人が集まり、言葉を交わしながら一緒に美術を鑑賞するワークショップです。

【日時】2018.6.3(日)、6.24(日)10:30-12:30

【対象】どなたでもご参加いただけます。

【定員】各日7名 事前申込制

【参加費】500円(別途本展観覧チケットが必要です)

### クロマキーランド

「クロマキー合成」によって、実際にそこにはないユニークな記念写真を撮影します。

【日時】2018.7.7(土)14:00-17:00

【対象】どなたでもご参加いただけます。

### 対話型作品鑑賞会

参加者で対話を交えながら作品を鑑賞します。

\*作品解説ではありません。

【日時】2018.5.31(木)、6.28(木)、7.26(木)18:30より

本展チケット(当日消印)をご持参ください。

関連イベントの詳細、参加方法などは当館ホームページでご確認ください。  
\*事業はやむを得ない事情で変更することがございます。

## | 出品予定作家

木村伊兵衛、桑原甲子雄、中平卓馬、奈良原一高、鈴木理策、植田正治、ダイアン・アーバス、ペルトン&ヒラ・ベッキヤ、アンリ・カルティエ＝ブレッソン、シンディ・シャーマン、ロベール・ドアノー、エリオット・アーウィット、リー・フリードランダー、マイナー・ホワイト、ギャラリー・ウィングランドをはじめ、約50名

### たのしむ、もらう TOPスタンプラリー開催!

「TOPコレクション たのしむ、まなぶ 夢のかけら」展を、8月11日(土・祝)~11月4日(日)に開催します。本展と合わせて、2つのTOPコレクション展をご覧になった方に、すてきなTOPオリジナルグッズがもらえるスタンプラリーを実施します。詳細は決定次第ホームページで発表します。

# 内藤正敏 異界出現

Naito Masatoshi  
Another World Unveiled

2F 2018.5.12 | 土 | - 7.16 | 月・祝 |

異色の写真家・内藤正敏は、1960年代の初期作品において、化学反応で生まれる現象を接写して生命の起源や宇宙の生成の姿を捉えました。その後、山形県・湯殿山麓での即身仏との出会いをきっかけに、60年代後半から80年代にかけて、主に東北地方で民間信仰の現場に取材した〈婆バクハツ!〉〈遠野物語〉など刺激的な写真シリーズを次々と発表しました。また、自らの写真に触発された民俗学研究も手がけ、東北と江戸・東京、科学と宗教といった異質なテーマを交差させ、日本文化の隠された思想体系を発見する研究論文をこれまでに多数発表してきました。90年代以降は、そうした研究と自身の想像力を融合させ、修験道の霊山における空間思想を解説するシリーズ〈神々の異界〉を手がけています。

「モノの本質を幻視できる呪具」である写真と、見えない世界を視るための「もう一つのカメラ」である民俗学を手段として、現世の向こう側に幻のように浮かび上がる「異界」を発見する人、内藤正敏。そのヴィジョンは、今日の私たちに大きな戦慄と深い洞察を与えてくれるはずです。

本展は主な写真シリーズを通して、その50年を超える足跡をたどるとともに、その表現世界に通底する独自の世界観、生命観をとらえていきます。



〈コアセルベーション〉より 1962年 ゼラチン・シルバー・プリント 作家蔵



《お籠りする老婆 高山稲荷》〈婆バクハツ!〉より 1969年 ゼラチン・シルバー・プリント

## 主な出品作品

### 〈コアセルベーション〉1962-63年

化学反応で生まれた造形を接写したシリーズ。コアセルベーションは、旧ソ連の生化学者オパーリンによる生命の起源説のキーワードである。長く幻の作品とされていたが、後にネガの一部が発見された。

### 〈即身仏〉1964年

4×5カメラで湯殿山を中心に即身仏をモノクロームで撮影。また羽黒山伏の入峰修行を始め、民俗学を独学で学んだ。

### 〈婆バクハツ!〉1968-70年

恐山のイタコたちを中心とした東北の民間信仰をテーマとする、作家の代表シリーズ。

### 〈遠野物語〉1971-75/83年

民俗学の創始者・柳田國男の代表作「遠野物語」をベースとして、この地の生活や習俗、信仰を捉えた。

### 〈東京〉1970-1985年

昭和の終わりの時代、東京という都市が放出していたエネルギーが強く表れている。

### 〈出羽三山の宇宙〉1984年

自らの写真作品をローソクを光源に超大型カメラで接写した実験作。「写してみないとわからない」という偶然性を追求した。

## 内藤正敏 PROFILE

1938年東京都生まれ。大学時代、化学を専攻後、フリーの写真家になり、初期は宇宙・生命をテーマに化学反応を撮影する「SF写真」に取り組んだ。25歳で即身仏に出会ったことをきっかけに、羽黒山伏の入峰修行に入る。写真集『婆 東北の民間信仰』(79年)、『出羽三山と修験』(82年)、『遠野物語』(83年)、『東京 都市の闇を幻視する』(85年)などを発表。多数の研究書・論文を発表する民俗学者でもある。元・東北芸術工科大学大学院教授、東北文化研究センター研究員。

【主催】東京都 東京都写真美術館／朝日新聞社

【観覧料】一般700(560)円／学生600(480)円／中高生・65歳以上500(400)円 ※( )は20名以上の団体料金



1)《死者供養をする老婆 恐山》〈婆バクハツ!〉より 1969年 ゼラチン・シルバー・プリント 2)《びんずる尊と羽黒鏡、海向寺、出羽三山神社》〈出羽三山の宇宙〉より 1984年 発色現像方式印画 3)《竈神 岩手県東和町》〈東北の民間信仰〉より 1968年 ゼラチン・シルバー・プリント 4)《富士山》〈神々の異界〉より 1992年 発色現像方式印画 2、4は作家蔵、その他は東京都写真美術館蔵

## 関連イベント トークイベント「内藤正敏の世界」

2018.6.8 (金) 飯沢耕太郎(写真評論家)×松岡正剛(編集工学者)

2018.6.29(金) 赤坂憲雄(民俗学者・学習院大学教授)

各日18:00-19:30 [定員] 各回50名 [会場] 東京都写真美術館 1階スタジオ ※当日午前10時より1階総合受付にて整理券を配布 ※作家本人の登壇はありません。

## 担当学芸員によるギャラリートーク

会期中の第2・第4金曜日14:00より。展覧会チケット(当日消印)をご持参ください。

\*事業はやむを得ない事情で変更することがございます。



# 写真発祥地の原風景 長崎

Geneses of Photography in Japan: Nagasaki

2F 2018.3.6|火|-5.6|日|



《眼鏡橋》慶応2(1866)年 フェリーチェ・ベアト 鶏卵紙  
DIC川村記念美術館蔵



繩屋版《駱駝図》江戸後期頃 多色刷木版 長崎歴史文化博物館蔵  
※展示期間は4月10日(火)-5月6日(日)です

当館では、日本における写真文化のセンターの役割を担うという美術館の基本的方針に基づき、毎春、初期写真に焦点を当てる展示を開催しています。2018年は、幕末より海外に開かれた港町として栄えた長崎を取り上げます。

長崎では、開国と同時に写真制作がはじまり、近代化の歴史が写真によって多く記録されました。ピエール・ロシエやフェリーチェ・ベアトなどの外国人写真師が訪れて写真を制作した一方、上野彦馬や内田九一などの日本人写真師も誕生し、日本の写真文化が開花する核となりました。

本展では、明治150年を記念し、長崎学に造詣の

深い姫野順一博士監修のもと、幕末・明治の長崎を展示室に再構築します。当館が収蔵する上野彦馬、内田九一、日下部金兵衛の作品をはじめ、フェリーチェ・ベアト『幕末アルバム』や『ポードイン・アルバム』(長崎大学附属図書館蔵)、伝・堀江敏二郎《上野彦馬像》(日本大学藝術学部蔵)、『内田九一写真帖』(長崎歴史文化博物館蔵)等の写真作品のほか、川原慶賀《長崎出島之図》(長崎大学附属図書館蔵 武藤文庫蔵)、写真を原図に用いた青貝細工の《長崎風物図箱》や、長崎版画、稀覯本も展示します。

本展は長崎歴史文化博物館に巡回(5月22日-6月24日)します。

## 関連イベント

長崎をめぐる初期写真シンポジウム  
オリジナルとデジタルアーカイブ

[日時] 2018.4.7(土) 14:30-17:30(14:00開場)  
[会場] 1階ホール [定員] 190名  
※当日10時より1階ホール受付にて整理券を配布。番号順入場、自由席。

古典技法ワークショップ  
コロネオン湿板制作デモンストレーション

[日時] 2018.4.14(土) 14:00-16:30  
[会場] 1階スタジオ [定員] 50名 入場無料 先着順

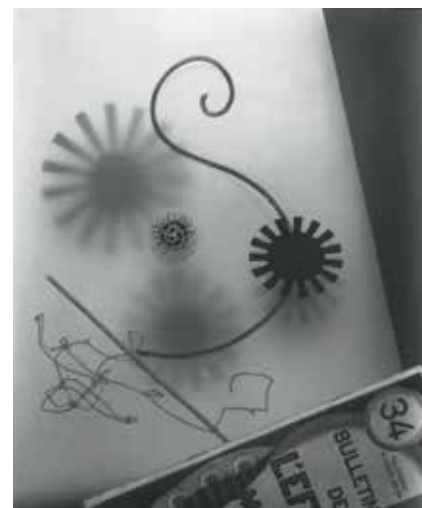
【主催】公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館/国立大学法人長崎大学/読売新聞社/美術館連絡協議会 【協賛】ライオン/大日本印刷/損保ジャパン日本興亜/日本テレビ放送網/東京都写真美術館支援会員 【協力】長崎県/長崎県観光連盟/長崎市/長崎市歴史文化博物館 【後援】オランダ大使館  
【観覧料】一般 700(560)円/学生 600(480)円/中学生・65歳以上 500(400)円 ※()は20名以上の団体料金

\*事業はやむを得ない事情で変更することがございます。

# 『光画』と新興写真 モダニズムの日本

The Magazine and the New Photography: KOGA and Japanese Modernism

3F 2018.3.6|火|-5.6|日|



中山岩太《……》1932年 中山岩太の会(兵庫県立美術館寄託)



木村専一(フォトアウゲ)より 1931年 東京都写真美術館蔵

本展は1930年前後に日本の写真史の中で盛んとなっていた「新興写真」に注目した展覧会です。「新興写真」とは、カメラやレンズによる機械性を生かし、写真でしかできないような表現をめざした動向です。

『光画』とは1932年から1933年までわずか2年足らずしか発行されなかった写真同人雑誌です。主宰者である野島康三、同人であった木村伊兵衛、中山岩太を中心に関西(浪華写真倶楽部、芦屋カメラクラブなど)のアマチュア写真家をも巻き込み、新興写真を牽引しました。評論家の伊奈信男が創刊号に掲載した「写真に帰れ」は、日本近代写真史を代表する論文として知られています。また1930年には雑誌『フォトタイムス』の編集主幹であった木村専一を中心に「新興写真研究会」が結成され、堀野正雄、渡辺義雄などが参加しています。わずか3号ですがこの研究会の雑誌も発行されました。

今回はこの二つの雑誌に掲載された写真を中心に、新興写真に影響を与えた海外写真家の作品とその後の写真表現を展覧いたします。

日本では戦後の主流となったリアリズム写真表現と相反する部分も多かったために、注目される機会が限られていました。しかしさまざまな実験や工夫があり、その後の広告表現やリアリズム写真にも影響を与えています。幅広い豊かな写真表現をご堪能ください。

## 関連イベント

トーク『『光画』について』

[日時] 2018.4.22(日) 14:00-15:30 [講師] 飯沢耕太郎(写真評論家)  
[定員] 50名(整理番号順入場/自由席)  
[会場] 東京都写真美術館 1階スタジオ [入場料] 無料/要入場整理券  
\*当日10時より1階総合受付にて整理券を配布します。

担当学芸員によるギャラリートーク

会期中第1・第3金曜日14:00より。展覧会のチケット(当日消印)をお持ちください。

【主催】東京都 東京都写真美術館/読売新聞社/美術館連絡協議会 【協賛】ライオン/大日本印刷/損保ジャパン日本興亜/日本テレビ放送網  
【観覧料】一般 700(560)円/学生 600(480)円/中学生・65歳以上 500(400)円 ※()は20名以上の団体料金

\*事業はやむを得ない事情で変更することがございます。

# 世界報道写真展2018

World Press Photo 2018

B1F 2018.6.9|土|-8.5|日|

世界中の約100会場で開催される世界最大規模の写真展「世界報道写真展」は今年で61回目を迎えます。今回は125の国と地域から4,548人のフォトグラファーが参加し、73,044点の応募がありました。大賞などを含め、受賞作品を紹介する「世界報道写真展2018」は6月9日から東京都写真美術館(恵比寿)で開催します。

今年は、「現代社会の問題」、「一般ニュース」、「長期取材」、「自然」、「人々」、「スポーツ」、「スポットニュース」、そして昨年の「日常生活」にかわり「環境」の部の8部門において、22カ国42人の全受賞者と大賞候補作6件が決まりました。

「一般ニュースの部」では、イヴォール・ブリケットがイスラム国(ISIS)からのモスル奪還を巡る戦闘に巻き込まれる市民や廃墟と化する街を捉えています。また、「人々の部」ではイスラム過激派「ボコ・ハラム」の誘拐から逃げ出し、自爆用の爆弾から免れた少女たちの姿をアダム・ファーガソンが撮影しました。このほか、密猟者からの保護のため自由を脅かされざるを得ない動物、大統領に対するベネズエラでの抗議活動の模様など、世界の「いま」を克明に伝える写真の数々を紹介します。なお、各賞の受賞者および大賞作品は、オランダで行われる受賞式にて4月に発表されます。



「人々の部 組写真」世界報道写真大賞 候補作品  
アダム・ファーガソン

オーストラリア、ニューヨーク・タイムズに提供、2017年9月21日  
ナイジェリアで「ボコ・ハラム」の戦闘員に誘拐された少女の肖像。爆発物を身体に縛りつけられ、自爆するよう命じられたが、逃げ出し、助けを得ることができた。



「一般ニュースの部 組写真」世界報道写真大賞 候補作品  
イヴォール・ブリケット

アイルランド、ニューヨーク・タイムズに提供、2017年7月12日  
イラク軍特殊部隊の兵士によって手当てをうける身元不明の男の子。イスラム国(ISIS)からのモスル奪還をめぐる戦闘では数千におよぶ市民が殺され、街の大部分が廃墟と化した。

「スポットニュースの部 単写真」世界報道写真大賞  
候補作品 ロナルド・シュミット

ベネズエラ、AFP通信、2017年5月3日  
ベネズエラのカラカスで、ニコラス・マドゥロ大統領への抗議行動中に機動隊との激しい衝突が起こり、火だるまになるデモ参加者。



【主催】世界報道写真財団/朝日新聞社 【共催】東京都写真美術館

【観覧料】一般 800(640)円/学生 600(480)円/中学生・65歳以上 400(320)円 ※()は20名以上の団体料金



「環境の部 単写真」  
ニール・アルドリッジ

南アフリカ、2017年9月21日  
麻酔をかけられ目隠しをされた若い白サイ。密猟者たちからの保護のために南アフリカからボツワナのオカパンゴデルタに移され、解放されるのを待っている。



「自然の部 単写真」  
トマス・P・ベジャク

ドイツ、2017年4月18日  
インド洋に浮かぶ南ア領南極地域のマリオン島で、岩に覆われた海岸線を通り抜ける行動でその名にこたえるイワトビペンギン。



「スポーツの部 組写真」  
アラン・シュローダー

ベルギー、レポーターズ、2017年9月24日  
インドネシア、スンパワ島の伝統、マエン・ジャラン競馬では、子供の騎手たち(5~10歳)が裸足のまま防具もほとんど付けずに小さな裸馬に乗る。

## 「フォトドキュメンタリー・ワークショップ」

国内では数少ないフォトドキュメンタリー/フォトジャーナリズムの現場を学べるワークショップを開催予定です。フォトドキュメンタリーの最前線で活躍する講師を迎え、レクチャー、ポートフォリオレビュー、クイック・ヒット・エッセイ制作を行います。開催日時などの詳細は、決まり次第ホームページにて発表します。

# 清里フォトアートミュージアム 収蔵作品展 原点を、永遠に。-2018-

Kiyosato Museum of Photographic Arts  
Basically. Forever. -2018-

B1F 2018.3.24|土|-5.13|日|

本展は清里フォトアートミュージアム(K\*MoPA)の全収蔵作品の中から、写真家が35歳までに撮影した作品を展示します。19世紀以降の海外の著名な写真家35人、第二次世界大戦以後の日本を代表する31人、K\*MoPAが世界の35歳以下を対象におこなう公募=ヤング・ポートフォリオから厳選した29人、計95人(各1~5点出品)409点の作品を公開します。なお会期中に展示替えをおこないます。同一作品を異なる順序でお楽しみください。



アル・ラブコフスキー  
(ラトビア 1981)  
《もっとレゴがほしい》2016年  
©Al Lapkovsky

前期<歴史編>:3.24-4.15

1886-2016年の作品を撮影年代順に展示。青年が時代を切り拓いてきた軌跡をたどります。

後期<作家編>:4.17-5.13

作家名をほぼアルファベット順に展示。一人ひとりの個性と写真の多様性に触れます。

## 「ギャラリートーク」

2018.3.24(土)14:00- 中藤毅彦× 終サナカ(ミステリー作家)  
2018.3.25(日)14:00- 瀬戸正人  
2018.4.7(土)14:00- 川田喜久治  
2018.4.21(土)14:00-、および16:00- 鬼海弘雄  
トークは各回とも約1時間です。

【観覧料】入場無料 ◎お問い合わせ》清里フォトアートミュージアム 0551-48-5599

# 第43回2018 JPS 日本写真家協会展

2018 The 43rd Exhibition of The JPS

B1F 2018.5.19|土|-6.3|日|

公益社団法人日本写真家協会が主催するJPS展は1976年に第1回展を開催し、今回で43回目を数えます。歴代の入賞・入選者からは多くのプロ写真家を輩出し、写真愛好家からの人気と評価の高い歴史ある一般公募展です。本展では2018年3月に発表予定の入賞・入選作品を紹介します。

【観覧料】一般 700円/学生・65歳以上 400円/高校生以下無料  
◎お問い合わせ》公益社団法人日本写真家協会 03-3265-7451

# 杉浦邦恵 うつくしい実験—ニューヨークとの50年

Kunié SUGIURA: Aspiring Experiments / New York in 50 years

(仮称)

2F 2018.7.24 | 火 | - 9.24 | 月・振休 |

杉浦邦恵の50年にわたる活動を顧みる個展、「杉浦邦恵 うつくしい実験—ニューヨークとの50年」を開催します。

ニューヨーク在住の杉浦は、1963年、20歳の時に単身渡米し、シカゴ・アート・インスティテュートで写真を学びました。卒業後、ニューヨークに移り住み、現在に至るまでチャイナタウンのスタジオで創作活動を続けています。

杉浦が作品制作をはじめた当時のアメリカは、ロバート・フランクやダイアン・アーバスに代表されるモノクロのストレート写真が全盛時代にありました。しかし、杉浦は写真というメディアの表現としての多様な可能性にいち早く注目し、カメラを使用しないで写真を制作するフォトグラムやコラージュによる作品制作を行うほか、写真の液体乳剤と油絵キャンパス、アルミニウムなど紙以外の素材と組み合わせるなど、実験的な作品制作に取り組んできました。

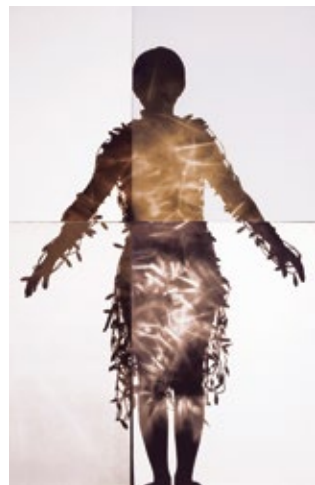
本展では1960年代後半からシカゴ、ニューヨークで作品制作を続けてきた杉浦の活動を通して、彼女が生きてきた時代背景と美術・写真の歴史の変遷を視ながら、杉浦がいかに先駆的であるかを浮かび上がらせようとする試みです。



1



2



電気服にちなんで Ap2 黄色 2002年  
黄色で調色されたゼラチン・シルバー・プリント



3



4

1) 行き止り 小 1977-2009年 フォト・エマルジョン アクリル/カンヴァス 2) 飛び跳ねる A ポジタイプ 1996年 ゼラチン・シルバー・プリント アルミニウム 3) 狐 #L9-V1/3 1966年 発色現像方式印画 4) 狐 #4-V2/2 1967年 発色現像方式印画

## | 関連イベント

会期中に関連イベントを予定しています。詳細は決定次第ホームページでお知らせします。

## | 担当学芸員によるギャラリートーク

会期中の第1・第3金曜日14:00より。展覧会チケット(当日消印)をご持参ください。

[主催] 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 [協賛] 東京都写真美術館支援会  
[観覧料] 一般 900(720)円/学生 800(640)円/中高生・65歳以上 700(560)円 ※()は20名以上の団体料金  
7月26日(木)-8月31日(金)の木・金18:00-21:00は学生・中高生無料/一般・65歳以上は団体料金(各種割引の併用はできません)  
\* 図版はすべて東京都写真美術館蔵 \* 事業はやむを得ない事情で変更することがございます。

# マジック・ランタン 光と影の映像史

The Magic Lantern—Short History of the Projected Images and Projection Media

B1F 2018.8.14 | 火 | - 10.14 | 日 |



左) 題不詳(マジック・ランタンを楽しむ子どもたち) 19世紀 リトグラフ 1850年頃 右下) ファンタスコープ(モルテニ製、フランス) 1840年頃



右) ランテルヌ・フォトジェニク(ジュール・ドゥボスク製、フランス)

本展では映像の歴史を、プロジェクションの歴史という視点から見直し、映像史の新たな側面を照らし出すことを試みます。

東京都写真美術館が所蔵する初期映像史に関する豊富なコレクションの中には、マジック・ランタンと呼ばれる最初期のプロジェクターや、映画の誕生以前に生まれた数々の映像装置や資料が含まれます。とりわけマジック・ランタンのコレクションは、国内最大級の質と量を誇るといえるでしょう。

光と影がつくりだす美しく不思議な世界は、日本でも写し絵や錦影絵、幻燈という名前で古くから親しまれてきました。光と影によってもたらされる映像の歴史を、マジック・ランタンをはじめとする当館コレクションを中心に紹介いたします。

また、近年「視覚文化史研究」や「メディア考古学」と呼ばれ注目をあつめる光学機器や視覚装置の歴史について、最新の研究成果をわかりやすく紹介し、映像文化の過去を振り返ることで、現在を考察します。



ファンタスマゴリアの種板 19世紀 ガラス板に木枠



ファンタスマゴリアの種板 19世紀 ガラス板に木枠

## | 関連イベント

会期中に関連イベントを予定しています。詳細は決定次第ホームページでお知らせします。

## | 担当学芸員によるギャラリートーク

会期中の第1・第3金曜日14:00より。展覧会チケット(当日消印)をご持参ください。

[主催] 東京都 東京都写真美術館 [協賛] 凸版印刷株式会社  
[観覧料] 一般 500(400)円/学生 400(320)円/中高生・65歳以上 250(200)円 ※()は20名以上の団体料金  
8月16日(木)-8月31日(金)の木・金18:00-21:00は学生・中高生無料/一般・65歳以上は団体料金(各種割引の併用はできません)  
\* 図版はすべて東京都写真美術館蔵 \* 事業はやむを得ない事情で変更することがございます。

最新の上映スケジュールはこちら▶



## 1F いぬむこいり

天孫降臨の地より日本の千年を撃つ! 美しくパンクな幻想世界! 4章構成、4時間を超える衝撃のクロニクルを有森也実が生きる!!

ある日、ダメダメなアラフォー小学校教師・梓(有森也実)のもとに「イモレ島へ行け。そこには、おまえが本当に望んでいる宝物がある」と神のお告げがある。すべてを捨てて宝探しの旅に出る梓の行く先には、オフビートなベテナー、ゴロツキ革命家、引きこもりの元ギタリスト、犬に変身する亡命王子などが待ち受け、果てしない欲望や争いに巻き込まれて行く。人智を越えたカオスと不条理に向かって突き進む梓が見つけたものとは…。

[上映期間] 2018.3.3(土) - 3.30(金) [休映日] 毎週月曜日、3.17(土)

[上映時間] 13:00~ ※途中休憩10分あり(1日1回のみ上映)

※本作品は15歳以上の方がご覧いただけます。

[料金] 一般・学生・シニア・中学生(15歳以上のみ) 2,000円/障がい者手帳をお持ちの方1,100円 各種割引あり



©2016 INUMUKOIRI PROJECT

〈お問い合わせ先〉  
太秦株式会社 03-5367-6073  
映画公式サイト  
www.dogsugar.co.jp/inumuko.html

### 各種割引

以下の方は当日料金が割引になります。

当館パスポート会員証提示、当館での展覧会・映画の半券提示、三越カード・伊勢丹カード・アトレビュー・Suicaカード提示、(公財)東京都歴史文化財団が管理する施設の友の会会員証・年間パスポート提示 ※上映によって割引料金が異なります。詳細はお問い合わせください。

## 1F マシュー・バーニー『クレマスター』シリーズ 全5部作 アンコール上映

[上映期間] 2018.3.31(土) - 4.1(日)

[上映時間]

3月31日(土) | 14:30『クレマスター1』(40分)  
| 15:30『クレマスター2』(79分)  
| 17:10『クレマスター3』(182分)途中15分休憩

4月1日(日) | 15:30『クレマスター4』(42分)  
| 16:30『クレマスター5』(54分)  
| 18:00『拘束のドローイング9』(135分)

[料金]

『クレマスター1』1,000円均一、『クレマスター2』1,600円均一、『クレマスター3』1,900円均一、『クレマスター4』1,000円均一、『クレマスター5』1,000円均一、『拘束のドローイング9』1,900円均一

※全席指定 各回入れ替え制 ※1枚のチケットでご鑑賞になれるのは、1作品のみとなります。※特別上映です。各種割引は使用できません。※前売券が定員190席に達した場合、当日券の販売はございません

[チケット]

【チケット発売】2018.2.24(土)10:00A.M~

【チケット取扱】Livepocket(ライブポケット)だけの取扱となります。

※チケット購入についての詳細・注意事項等は、トモ・スズキ・ジャパン公式ホームページをご覧ください。



CREMASTER 3, 2002  
Photo Chris Winget  
© Matthew Barney, courtesy Gladstone Gallery, New York and Brussels

〈お問い合わせ先〉  
トモ・スズキ・ジャパン有限公司  
03-5468-7172  
映画公式サイト  
www.tomosuzuki.com/cremaster2018top

事業内容は予告なく変更される場合があります。最新の情報はホームページをご覧ください。

大好評!

## お得な年間パスポート、いよいよ発売! 早めのご購入がオトクです

展覧会を無料、割引でご観覧いただけるお得な年間パスポートが、今年も発売になります。ご本人様に加えて、同伴の方1名様もご利用いただけます。展覧会だけでなく、ミュージアム・ショップでのお会計が5%引きになる(一部商品を除く)など、たいへんお得な年間パスポートです。有効期間は4月からの1年間となりますので、早めのご購入がオトクです!

□販売価格:3,240円(税込) □有効期間:2018年4月1日(日)-2019年3月31日(日)

□販売開始:2018年4月1日(日) ※枚数限定のため、予定枚数に達し次第販売終了となります。

□販売場所:当館1階総合受付 ※販売は開館日の開館30分前までとなります。

PASSPORT 2018

TOP MUSEUM

特典 1 展覧会を無料または割引でご観覧いただけます

(1) 收藏展(Ⓧ)のついた展覧会: 無料  
有効期間中は何度でもご観覧いただけます。

(2) 企画展(Ⓨ)のついた展覧会: 4回まで無料  
有効期間中お好きな企画展を4回まで無料でご観覧いただけます。5回目以降は割引となります。

(3) 誘致展: 割引

(4) 同伴の方1名様まで展覧会を無料または割引でご観覧いただけます。收藏展: 無料 / 企画展・誘致展: 割引

※誘致展とは(收藏展と企画展を除く、そのほかの有料の展示が対象です)

※Ⓧ(Ⓨ)は本誌裏面スケジュールをご確認ください。

特典 5 (公財)東京都歴史文化財団が管理運営する、下記的美術館・博物館での割引(予定)

東京都庭園美術館・東京都江戸東京博物館・江戸東京たてもの園・東京都現代美術館(休館中)・東京都美術館・東京文化会館。  
(公財)東京都歴史文化財団各施設の割引のご案内は各施設で承ります。

詳細とご利用時の注意事項は当館ホームページをご覧ください。また、1F総合受付までお問い合わせください。特典の内容は美術館の事業運営上の都合により、やむを得ず一部変更する場合がございます。あらかじめご了承ください。

特典 2 1階ホール(上映)の割引

※同伴の方1名様まで: 割引 ※割引の有無および割引料金は上映作品によって異なります。

特典 3 ミュージアム・ショップでのお買い物が5%引き  
(一部商品を除きます)

特典 4 カフェのランチメニューご注文時にドリンクを一杯サービス

年間パスポートの詳細はこちら▶



展覧会といっしょにたのしむ

## 図書室

東京都写真美術館の図書室(4階)は、写真と映像の専門図書室です。写真集を中心に、展覧会カタログ、評論集、写真史・映像史に関する図書、専門雑誌など国内外の資料を広く収集し、一般に公開しています。どなたでも無料で利用できます。



展覧会の関連図書コーナー

展示で気になった作家についてもっと知りたい、という方は必見! 図書室では、開催中の展覧会に合わせて、出品作家の貴重な写真集や著作本などを特設で展示・紹介しています。手にとってゆっくりとお楽しみください。

[開室時間] 10:00-18:00

(閉架資料の請求・コピーサービスは 10:00-11:30 / 13:00-17:30、火・水は10:00-17:30)

□閲覧は図書室内のみで、館外貸出はしていません。 □コピーサービスは有料です。

蔵書はインターネットでも検索できます。詳細は当館ホームページをご覧ください。

# 支援会員

東京都写真美術館の活動をご支援いただくため、  
次の企業・団体に支援会員としてご入会いただきました。

《特別賛助会員》  
キヤノン(株)  
(株)資生堂  
全日本空輸(株)  
(株)ニコン

《賛助会員》  
キヤノンマーケティングジャパン(株)  
ゲッティイメージズジャパン(株)  
大日本印刷(株)  
東急建設(株)  
凸版印刷(株)  
富士フィルム(株)  
(株)リコー

《特別支援会員》  
アサヒグループホールディングス(株)  
サッポロ不動産開発(株)  
サッポロホールディングス(株)  
(株)パラゴン

《支援会員》  
(株)I&S BBDO  
あいおいニッセイ同和損害保険(株)  
アオイネオン(株)  
(株)AOI Pro.  
(株)アサツー ディ・ケイ  
旭化成(株)  
朝日新聞社  
(株)朝日新聞出版  
朝日生命保険(相)  
アスクル(株)  
(有)アスペン/POLARIS  
(株)アマナ  
(株)岩波書店  
ウェスティンホテル東京  
(株)潮出版社  
内田写真(株)  
(株)栄光社  
(株)エージーピー  
(株)エスジー  
(株)ADKアーツ  
(株)NHKアート  
NHK営業サービス(株)  
(株)NHKエデュケーショナル  
(株)NHKエンタープライズ  
(株)NHKグローバルメディアサービス  
(株)NHK出版  
(株)NHKビジネスクリエイト  
(株)NHKメディアテクノロジー  
エプソン販売(株)  
エルメス財団  
オリックス(株)

オリンパス(株)  
(株)オンワードホールディングス  
花王(株)  
カシオ計算機(株)  
鹿島建設(株)  
(株)KADOKAWA  
カトーレック(株)  
神奈川新聞社  
(株)かんぽ生命保険  
(株)キクチ科学研究所  
(株)キタムラ  
キッコーマン(株)  
(株)紀伊國屋書店  
ギャラリー小柳  
共同印刷(株)  
(一社)共同通信社  
空港施設(株)  
(株)久米設計  
グローリー(株)  
ケンコー/トキナー/スリック  
興亜硝子(株)  
(株)弘亜社  
(株)廣済堂  
(株)講談社  
(株)光文社  
(株)国書刊行会  
(株)コスモスインターナショナル  
(株)コーセー  
コダック(同)  
コダックアライズジャパン(株)  
(株)コバヤシ  
小山登美夫ギャラリー(株)  
(株)ザ・アール  
三機工業(株)  
産経新聞社  
サントリーホールディングス(株)  
(株)サンライズ  
(株)ジェイアール東日本企画  
JSR(株)  
JXTGホールディングス(株)  
ジェイティービー印刷(株)  
(株)シグマ  
(株)実業之日本社  
信濃毎日新聞社  
清水建設(株)  
(株)写真弘社  
写真の学校/東京写真学園  
シャネル(株)  
(株)集英社  
(株)主婦と生活社  
(株)主婦の友社  
(株)小学館  
城西国際大学メディア学部  
松竹(株)  
信越化学工業(株)

(株)新潮社  
(株)スタジオアリス  
(株)スタジオエムジー  
(株)スタジオジブリ  
スターツ出版(株)  
(株)SUBARU  
(株)住友化学(株)  
住友生命保険(相)  
(株)生活の友社  
セイコーホールディングス(株)  
(株)青春出版社  
成美製版(株)  
積水ハウス(株)  
双日(株)  
ソニー(株)  
損害保険ジャパン日本興亜(株)  
第一生命保険(株)  
第一法規(株)  
(株)ダイケンビルサービス  
台新国際商業銀行  
大成建設(株)  
(株)大丸松坂屋百貨店  
大和証券(株)  
(有)タカ・イシイギャラリー  
高砂熱学工業(株)  
(株)高島屋  
(株)宝島社  
(株)竹中工務店  
玉川大学芸術学部  
(株)タムロン  
(株)丹青社  
(株)中央論新社  
中外製薬(株)  
帝人(株)  
(株)TBSテレビ  
デジタル・アドバタイジング・コンソーシアム(株)  
(株)テレビ朝日  
(株)テレビ東京  
電源開発(株)  
(株)電通  
東亜建設工業(株)  
東映(株)  
東京海上日動火災保険(株)  
東京急行電鉄(株)  
東京工芸大学  
東京新聞・中日新聞社  
(株)東京スタデオ  
東京造形大学  
東京総合写真専門学校  
東京地下鉄(株)  
東京テアトル(株)  
東京都競馬(株)  
(株)東京ドーム  
(株)東京ニュース通信社

(学)専門学校 東京ビジュアルアーツ  
(株)東京美術倶楽部  
東京メトロポリタンテレビジョン(株)  
(株)東芝  
東宝(株)  
(株)東北新社  
(株)東洋経済新報社  
東洋熱工業(株)  
(株)トキワ  
(株)徳間書店  
戸田建設(株)  
トヨタ自動車(株)  
(株)トロンマネージメント  
(株)ニコンイメージングジャパン  
日外アソシエーツ(株)  
日油(株)  
日活(株)  
(株)日経BP  
日光ケミカルズ(株)  
(株)日産自動車(株)  
(株)日本カメラ社  
日本空港ビルデング(株)  
日本経済新聞社  
(株)日本広告社  
(公社)日本広告写真家協会  
日本コルマー(株)  
(株)日本色材工業研究所  
日本写真印刷コミュニケーションズ(株)  
(公社)日本写真家協会  
(公社)日本写真協会  
日本写真芸術専門学校  
(一社)日本写真文化協会  
(株)日本生命保険(相)  
日本大学芸術学部  
日本たばこ産業(株)  
日本テレビ放送網(株)  
(株)ニッポン放送  
日本ロレックス(株)  
(株)ニューアートディフュージョン  
ノーリツ鋼機(株)  
野村證券(株)  
(株)博報堂  
(株)博報堂DYメディアパートナーズ  
(株)東京スタデオ  
(株)バス・コミュニケーションズ  
(株)ハースト婦人画報社  
(株)ハーツ  
バナソニック(株)  
バリミキ  
びあ(株)  
ビービーメディア(株)

北海道 写真の町東川町  
東日本旅客鉄道(株)  
光写真印刷(株)  
(株)ビクトリコ  
(株)美術出版社  
(株)ビックカメラ  
(株)ビデオプロモーション  
(株)ピラミッドフィルム  
(株)ファーストリテイリング  
(株)フェドラ  
(株)フォトメディア  
(株)フジテレビジョン  
(株)プラザクリエイト  
(株)プリンスホテル  
(株)フレームマン  
(株)文化工房  
(株)文藝春秋  
ベルボン(株)  
北海道新聞社  
(株)ホテルオークラ東京  
(株)堀内カラー  
本田技研工業(株)  
毎日新聞社  
(株)マガジンハウス  
丸善(株)  
マルミ光機(株)  
(株)マンダム  
(株)みずほ銀行  
三井住友海上火災保険(株)  
三井倉庫ホールディングス(株)  
三井不動産(株)  
(株)三越伊勢丹 三越恵比寿店  
三菱地所(株)  
三菱製紙(株)  
三菱倉庫(株)  
三菱電機(株)  
三菱UFJ信託銀行(株)  
(株)ミルボン  
武蔵大学  
明治安田生命保険(相)  
森ビル(株)  
ヤママトロジスティクス(株)  
(株)吉野工業所  
(株)ヨドバシカメラ  
読売新聞社  
ライオン(株)  
ライカカメラジャパン(株)  
リコーイメージング(株)  
リシュモン ジャパン(株)  
モンブラン  
(株)良品計画  
(株)ロボット  
(株)ワコウ・ワークス・オブ・アート  
(株)ワコール

2F SHOP  
ミュージアム・ショップ

NADIFT  
BAITEN

展覧会関連書籍はもちろん、季節のグッズも充実のミュージアムショップ。外もあたたかくなり、お出かけしたくなる季節。華やかな小物からちょっと一味違うガイドブックまで、お楽しみいただける商品を取り揃えております。

TOKYO/JAPAN 各号1,080円 TOKYO TOTEM 2,916円  
ひびのこぶえハンカチ 1,080~1,296円  
D-BROSSフラワーベース(2枚入り) 1,080円  
MIDORIKABANカメラバッグ 8,100円(価格はすべて税込)



詳細ページはこちら  
QRコード

営業時間/10:00-18:00(木・金は20:00まで)  
TEL/03-6447-7684  
定休日/毎週月曜日(そのほか美術館の休館日に準じます)

1F CAFE  
カフェ

MAISON ICHI  
BOULANGER-PÂTISSIER-TRAITEUR-CHARCUTIER

LUNCH MENU (11:30-15:00)  
本日のキッシュ(自家製パン付き) 1,080円  
チーズたっぷりラザニア風グラタン 1,296円  
季節のスープとデリプレート(自家製パン付き) 1,296円

自家製パン、ドリンクはお持ち帰りできます  
キッシュ各種 538円 自家製サンド 480円~  
タルト各種 430円  
スペルト小麦の田舎パン 1/4サイズ 430円 ホール1,620円  
コーヒー 540円/ティー 540円 ジュース・アルコール類もあります。  
メニューは予告なく変更される場合があります。(価格はすべて税込)



詳細ページはこちら  
QRコード

営業時間/10:00-19:00(木・金は20:00まで)  
TEL/03-6277-3862 定休日/毎週月曜日(そのほか美術館の休館日に準じます)

(株)=株式会社、(相)=相互会社、(有)=有限会社、(学)=学校法人、(公社)=公益社団法人、(同)=合同会社、(一社)=一般社団法人 (平成30年2月現在・五十音順)



# SCHEDULE / スケジュール

展覧会・イベント・上映の最新情報は、  
topmuseum.jpまたはこちらへ▶



	3F	2F	B1F	1F
2018 3	『光画』と新興写真 モダニズムの日本 (収) 3.6(火)~5.6(日)	写真発祥地の原風景 長崎 (企) 3.6(火)~5.6(日)	APAアワード2018 3.3(土)~3.18(日)	いぬむこいり 3.3(土)~3.30(金)
4			清里フォトアートミュージアム 収蔵作品展 原点を、永遠に。~2018~ 3.24(土)~5.13(日)	マシュー・バーニー 『クレマスター』シリーズ 全5部作 アンコール上映 3.31(土)~4.1(日)
5	TOPコレクション たのしむ、まなぶ イントゥ・ザ・ピクチャーズ (収) 5.12(土)~8.5(日)	内藤正敏 異界出現 (収) 5.12(土)~7.16(月・祝)	第43回2018JPS 日本写真家協会展 5.19(土)~6.3(日)	
6			世界報道写真展2018 6.9(土)~8.5(日)	
7		杉浦邦恵 うつくしい実験 ニューヨークとの50年(仮称) (企) 7.24(火)~9.24(月・振休)	マジック・ランタン 光と影の映像史 (収) 8.14(火)~10.14(日)	
8	TOPコレクション たのしむ、まなぶ 夢のかけら (収) 8.11(土・祝)~11.4(日)			

(収)「ぐるっとバス 2018」対象の展覧会 「ぐるっとバス 2018」の詳細はこちら▶  
当館年間パスポートの情報は本誌12ページをご覧ください。



## 割引料金について

展覧会を割引料金にてご観覧いただけます

- 20名以上の団体のお客様 観覧料が2割引
- 各種会員の方 観覧料が2割引
  - アトレビューSuicaカード
  - MIカード(三越伊勢丹グループのクレジットカード)
  - ウエルカムカード(訪日外国人向けの割引カード)
  - 当館映画鑑賞券提示者
  - 財団他館友の会、年間パスポート会員
  - JR東日本「大人の休日倶楽部」カード
- 親子ふれあいデー(毎月第3土曜日と引き続く日曜日が対象)  
観覧料が5割引
  - 都民で18歳未満のお子様を連れてご家族が対象です。  
※詳しくはお問い合わせください。

割引対象

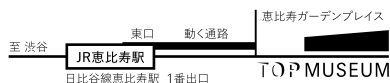
展覧会を無料でご観覧いただけます

- 小学生以下
  - 障がい者手帳提示者及びその介護者(2名まで)
  - 被爆者手帳提示者及びその介護者(2名まで)
  - 愛の手帳・療育手帳提示者及びその介護者(2名まで)
  - 精神障害者福祉手帳提示者及びその介護者(2名まで)
  - 東京都内在住・在学の中学生
 ※教育活動(スクールプログラムなど)で当館をご観覧希望の生徒と引率者は事前申告が必要です。  
当館までお問い合わせください。
- シルバーデー(毎月第3水曜日)
  - 65歳以上の方 ※証明できるものの提示が必要です

無料対象

## 東京都写真美術館

TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM



〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内 Tel.03-3280-0099 topmuseum.jp

JR恵比寿駅東口より徒歩約7分、東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分※当館には専用駐車場はありません。恵比寿ガーデンプレイスの駐車場を御利用ください。

開館時間 10:00~18:00(木・金は20:00まで)。ただし、7月19日(木)~8月31日(金)の木・金曜日は21:00まで開館。入館は閉館の30分前まで。  
休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は開館、翌平日休館)、ただし、4月30日(月・振休)、5月1日(火)は開館。

東京都写真美術館ニュース「アイズ18」94号 □発行日:2018年3月22日/企画・編集:東京都写真美術館事業企画課普及係 □印刷・製本:株式会社公栄社 □発行:公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館©2018 □本誌掲載の記事、写真の無断複写、複製を禁じます。※本誌編集ページに掲載されている観覧料は、原則として消費税込みの価格です。事業内容は予告なく変更される場合があります。最新の情報はホームページをご覧ください。

